

956-11

昭和40年度 自昭和40年4月1日
至昭和41年3月31日

事 業 報 告

決 算 報 告 書

財団法人 日本常民文化研究所

956-11

昭和40年度事業報告，財産目録，貸借対照表，損益計算書並に損益金処
分案は次の通りであります。

昭和41年5月21日

財団法人 日本常民文化研究所

理事長 桜田 勝 徳

理事 有 賀 喜左衛門

〃 宇 野 脩 平

〃 竹 内 利 美

〃 羽 原 又 吉

〃 宮 本 馨 太 郎

目 次

- (一) 事業報告
- (二) 貸借対照表
- (三) 財産目録
- (四) 損益計算書
- (五) 損益金処分案

(一) 事業報告

昭和40年度は、財政的基礎も定まらず不十分ではあったが、つぎの事業を行った。

- I 絵巻の会 8月をのぞいて月例会をもち、
直幹申文
長谷雄草紙
絵師草紙
福富草紙

の検討を終った。そして、渋沢敬三編著「絵巻物による日本常民生活絵引」才2巻、才3巻(全5巻)を角川書店より刊行した。

- II 植物莖皮繊維および樹液等に関する民俗学的研究
2回の研究会をもち、既存資料の検討をおこなったほか、樹液採取技術を中心として実地調査を行った。

- III 漁業発展の地域的類型に関する研究
2回の研究会をもち、既存資料の整理検討をなした。

貸借対照表 昭和41年3月31日現在

科 目	公 益 部		收 益 部		合 計	
	借方(資産)	貸方(負債)	借方(資産)	貸方(負債)	借方(資産)	貸方(負債)
基 本 資 本	8,627,000	500,000			8,627,000	500,000
固 定 資 産	7,500,000				7,500,000	
元 預 現	4,236		7,617		11,853	
有 価 証 券	0		1,198		1,981	
積 立 金	300,000		350,000		300,000	
未 償 債 負				75,000		75,000
借 入 金				300,000		300,000
預 後 通 常 積 立 金				200		200
後 通 常 積 立 金				12		12
通 常 積 立 金						8,927,000
定 額 積 立 金						282,198
小 計	9,506,236	9,709,198	25,000	375,212	9,900,834	10,084,410
当 期 損 失 金	202,962				202,962	
当 期 利 益 金				19,386		19,386
計	9,709,198	9,709,198	394,598	394,598	10,103,796	10,103,796

財 産 目 録

昭和41年3月31日現在

公 益 部

資 産 之 部

固 定 資 産 8,627,000円

内訳 { 土地, 港区三田綱町11番地及び10番地ノ8号所在 坪8208,000円
建物, 港区三田綱町11番地所在木造瓦葺平家建1棟他 419,000円
附属建物共

定 期 預 金 500,000円 基本金トシテ才一銀行銀座支店=預金
有 価 証 券 300,000円 清水建設KK株券2,000株
元 入 金 75,000円 運営資金トシテ収益部へ元入
預 金 4,236円 協和銀行麻布支店普通預金口座

負 債 之 部

基 本 金 500,000円 才一銀行銀座支店定期預金トシテ保有
通 常 財 産 8,927,000円 { 固定資産トシテ保有土地建物 8,627,000円
清水建設KK株券2,000株 300,000円
積 立 金 282,198円 既往事業経営ニ於ケル益金積立金

956-11

損益金処分

昭和41年3月31日現在

公益部

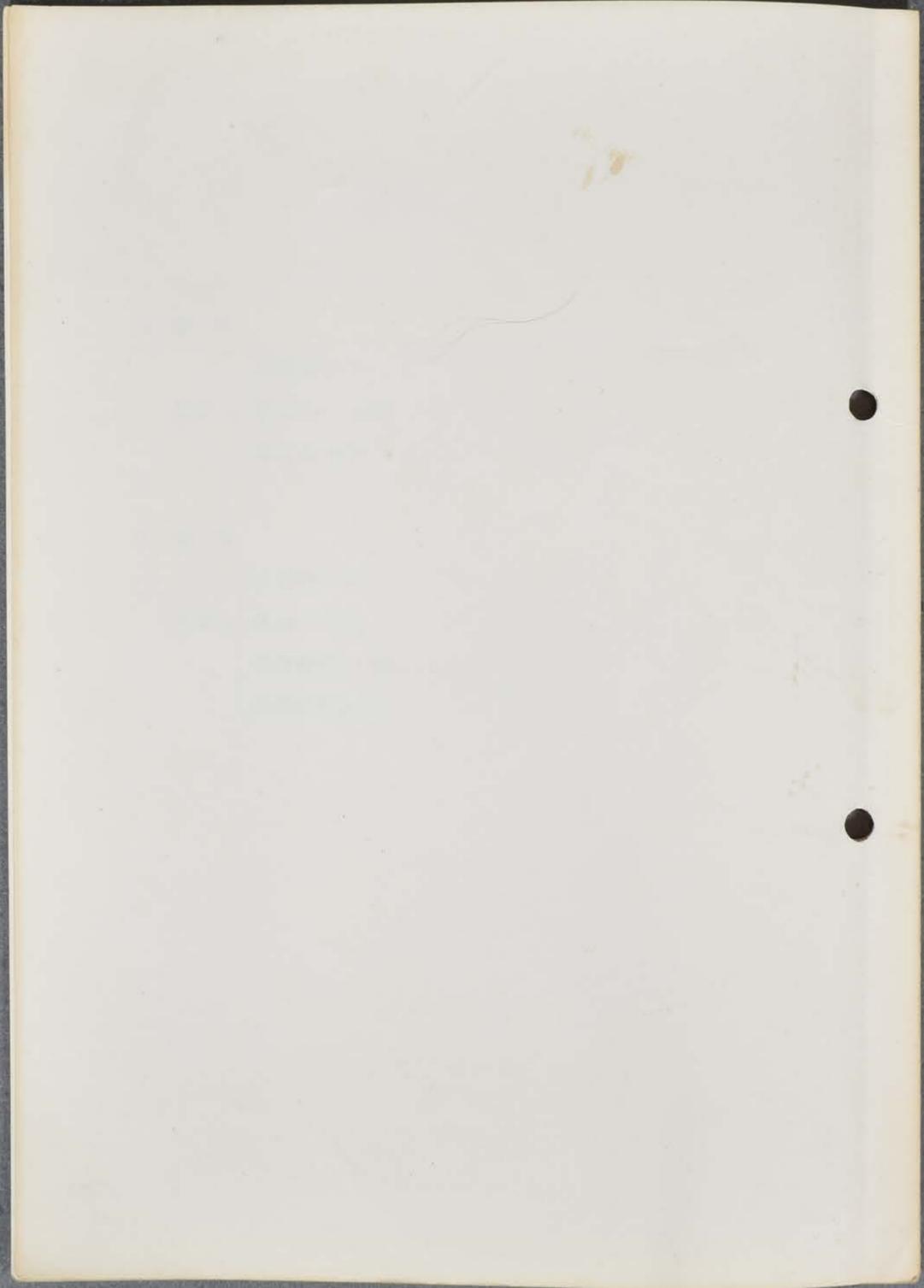
処分	当期損失金	20,296.2円
	積立金ヨリ補填	20,296.2円
	積立金残額	7,236.6円

収益部

処分	当期利益金	19,386.6円
	税金引当金	11,730.0円
	後期繰越金ニ繰入	7,656.6円
	後期繰越金合計	7,668.6円

法人税 6,170.0円
法人税割取均等割 5,560.0円

956-11



956-2

昭和41年度

事業計画
収支予算書

財団法人 日本常民文化研究所

(一) 事業計画

昭和41年度は、前年度にひきつづき、継続事業の才2年目として、つぎの研究課題について調査研究を行うと同時に、研究体制の整備にも留意する。

I 植物莖皮繊維および樹液等に関する民俗学的研究

ここでいう植物莖皮繊維とは、まずイナワラが用途からみると大宗をしめており、日本の文化の中で、米とワラを合せて、「稲の文化」がこれまで特殊の地位を保ってきたことは論をまたないが、ワラ出現以前、あるいはワラ以外のものとして、カラムシ・バショウ・イチビ・クズ・アケビ・麻などがあり、このほか莖皮を広義に解すれば竹・ヤナギ・ヒノキ等もふくめられる。こうした植物の「莖皮文化」は過去の常民生活とは切り離せないものとして存在してきたことは周知のことである。そして本研究所は過去三十年間にわたる、これら材料によって製作された、結束用、漁撈用、包装運搬用または容器、被覆敷物、あるいは服飾、祭祀関係におよぶ、「民具」と総称される物質文化の研究を断続的にはあるが手がけてきた。最近における見るべき成果としては、「日本の民具」(全四巻慶友社刊)が刊行中である。

しかし、ウルシ・ロウ・シブ・トリモチなど樹液等に関するものや、莖皮繊維においてもイナワラ、麻などを除いては手が及ばなかった部分として残されており、これら燈火光源、色付染色、鳥類採捕用の原料とともにその多くは山野の自然採取にゆだねられたものであった。そうした採取技術や、民具の形態を決定する要因である編み方、結び方の製作技術の調査研究も生活様式が激変する今日にあっては早急にとりくまねばならぬ課題である。

主任研究員 桜田勝徳 (日本大学講師)
宮本馨太郎 (立教大学教授)
磯貝勇 (中京工業大学教授)

祝 官 静 (主任文化財調査官)

II 絵画史的文献の常民生活史的研究

絵画史的文献の中心となるものはいうまでもなく絵巻物である。絵巻物における常民生活文化の研究は故渋沢敬三先生主宰の下に昭和三十年代より開始され、渋沢先生の歿後も継続研究がなされ、その成果は「絵巻物による日本常民生活絵引」(全五巻、角川書店刊)としてまとめられ、その完結の見通しは一おう本年度中にはつくはずである。

この時点において、絵画史的研究を従来の絵巻物の枠からひろげ、資料の多くを近世期に求めると相当量のものが見出される。

まず、写本、刊本を問わず研究所所蔵のものから手がけるとして、「大和絵年中行事」「耕稼春秋」「農具絵図」「農業全書」「農家勤労図」「南島雑話」「東遊雑記」「西遊雑記」「成形図説」シーボルト「日本」があり、従来の絵巻物にくらべると民衆生活の描かれる部分が多くなる。また周囲民族との比較からは「苗族図誌」「天工開物」などがあげられる。

これらの資料より、1)住居 2)衣服 3)食事 4)調度・施設・技術 5)資料取得・生業 6)交通・運搬 7)交易・交易品 8)容姿・動作・労働 9)人生身分・病 10)死・埋葬 11)児童生活 12)娯楽・遊戯・交際 13)年中行事 14)動植物・自然 15)神仏・祭・信仰 に関する部分を抜萃し、これと絵巻物資料との比較を行い、常民生活文化の推移を明らかにする。

主任研究員 官 本 常 一 (日本常民文化研究所員
武蔵野美術大学教授)

速 藤 武 (和洋女子大学教授)

有 賀喜左衛門 (日本女子大学)

河 岡 武 春 (日本常民文化研究所員)

III 漁業発展の地域的類型に関する研究

明治末期にはじまる漁業における資本主義の本格的展開過程は、才一次産業部門のなかでも、ほかではみられない豊富な諸形態を示していることは周知のことである。そしてこれを促したものは、まず漁船の動力化にあったが水産業においては複雑な海況によって魚種および採捕技術にきわめて地域的特性があり、水産業の近代化をとりあげるにしても、徳川中期以降に飛躍的に進んだ漁業生産技術が前提になっており、しかもその多様性はそのまま地域的性格を表現するものであった。その意味からするならば、主要生産地域の個別的研究の上に漁業史の体系化はなされなければならない。

戦后における漁業史研究はかなりの盛行をみ、個別的研究もすすめられたが、いまだ漁業生産の発展を地域的類型にまでまとめあげるところまでいたっていない。戦後の漁業制度改革にともなう本研究所の漁村古文書の蒐集筆写資料は尨大な量におよんでおり、この中には相当量の未研究資料が残されているので、研究員の地域分担に応じて、これら資料の検討を通じて上記課題にとりくみたい。

主任研究員 宇 野 脩 平 (東京女子大学教授)

二野瓶 徳 夫 (国立国会図書館)

網 野 善 彦 (都立北園高校)

秋 田 俊 一 (北海道立総合経済研究所員)

速 水 融 (慶応大学助教授)

五 味 克 夫 (鹿児島大学助教授)

河 岡 武 春 (日本常民文化研究所員)

昭和41年度 収 支 予 算

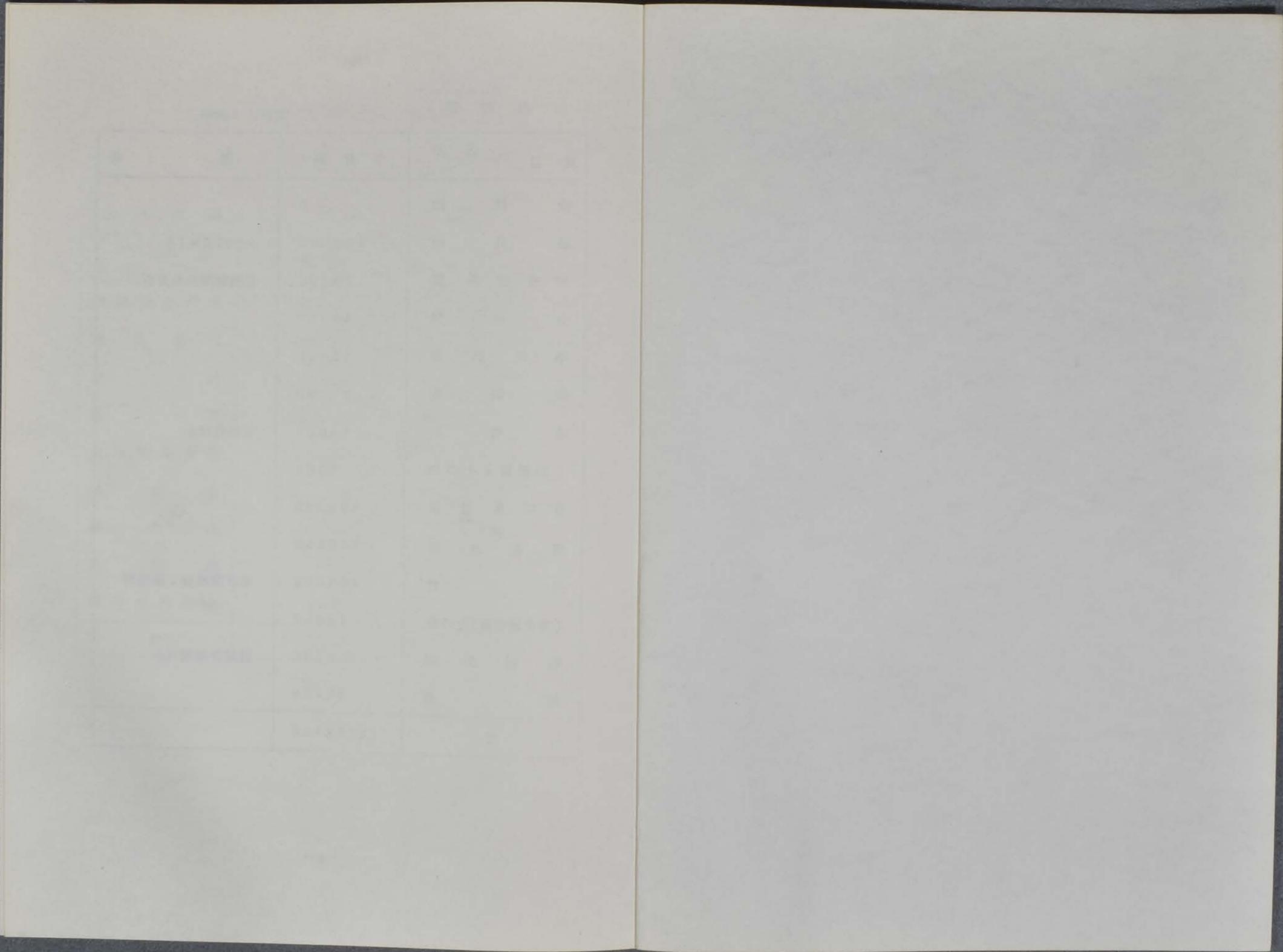
収 入 の 部

区 分 項 目	予 算 額	備 考
定期預金利息	27,500	50万円才一銀行銀座支店
株式配当	34,000	清水建設株式 3400株
地 代	1,500,000	
印 税	350,000	「絵巻物による日本常民生活 絵引」43巻
出版物売上金	30,000	
補助金	0	
寄 附 金	10,000	
委 託 費	0	
前年度繰越金	7,668	
計	1,959,168	

支 出 の 部

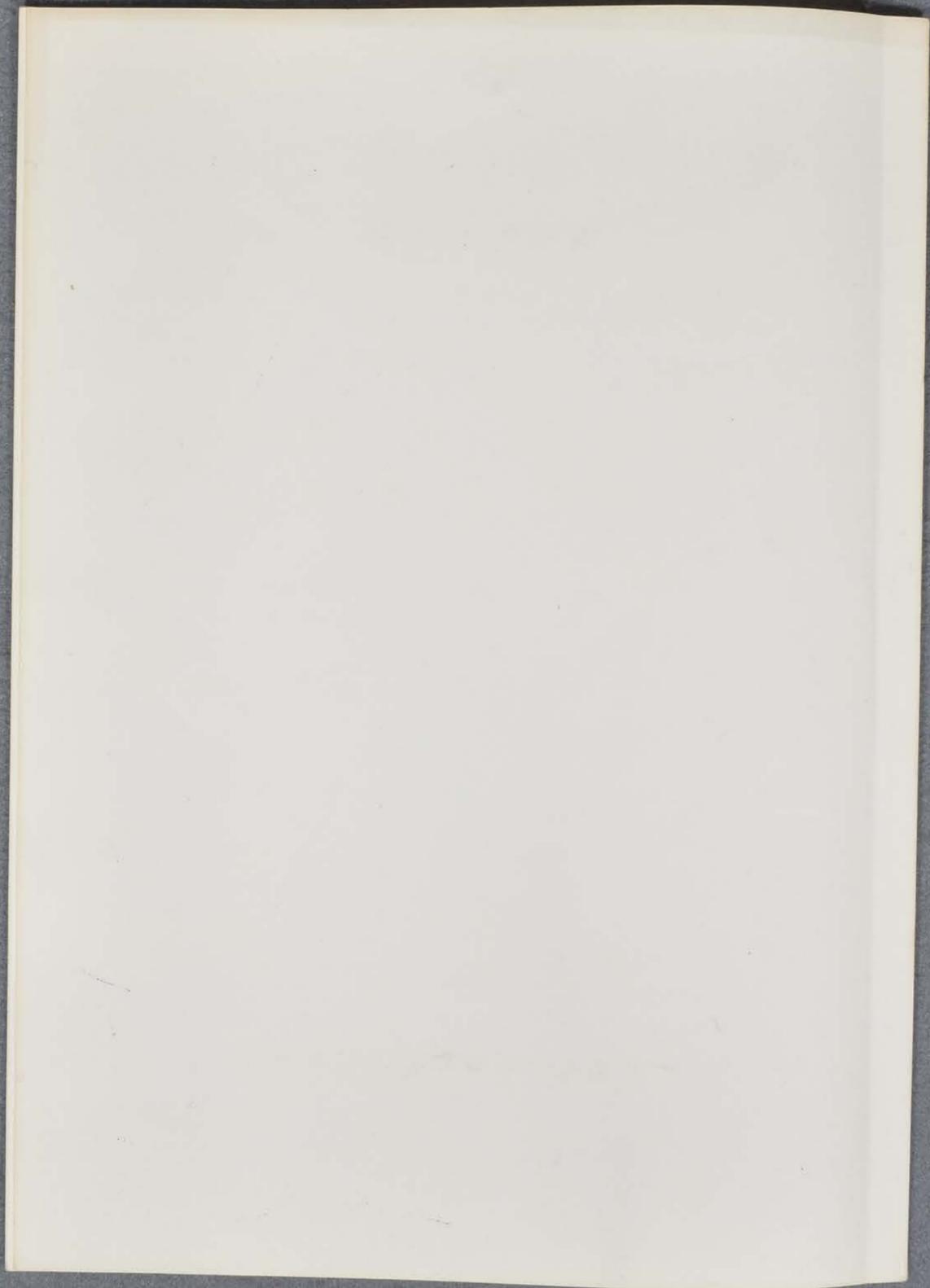
区 分 項 目	予 算 額	備 考
役 員 給	0	
職 員 給	960,000	64,000×15
旅 費 交 通 費	40,000	交通費補助を含む
会 合 費	30,000	
消 耗 品 費	15,000	
印 刷 費	25,000	
通 信 費	55,000	電話料ほか
(需要費)その他	5,000	
資 料 蒐 集 費	180,000	
調 査 旅 費	350,000	
労 賃	100,000	集計整理費, 筆稿料
(調査研究費)その他	10,000	
租 税 公 課	150,000	固定資産税ほか
雑 費	39,168	
計	1,959,168	

956-2



0 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99

956-2





◎ 昭和四年一度 評議員會議事録

一日時不昭和四年五月五日(日)午後三時(外)開會

二場所 港區南麻布四丁目九ノ一七 直ノ出 議事録

三出席者 評議員 磯貝 勇 評議員 中山 正則

河岡 武春 祝詞 宮 靜

櫻田 勝徳 高木 一夫 宮本 馨 方郎

評議員 有賀 善太郎 評議員 竹内 利美





◎ 議案米三斗

榎田理事長の指名により事務局より河同所員が決算に付ては遠藤武監事より五月廿七日監査を以てた旨発言の事業報告および収支決算に付て報告を以て全員異議なく承認した。

◎ 昭和四年年度事業計画及び収支予算承認の件

議長事業計画並びに収支予算を讀みあげ、本年より三斗半程度の期間において、これまで樹木となりては漁村古文書の整理、返還をすすめたいと発言があり、これに付て種々論議があったと。宮本監事理事より、(一) 借用品古文書についてはおまかせすみやかに返還する事と(二) 木筆字のものはおまかせすし、(三) 範囲において、復写のりておまかせ協会はマインテックにおまかせすること、(四) 返すべくして



四 議事要領

榎田理事議長となり、用命を宣し、出席者が定足数に達したる日を報告し、ついで議事録署名人に入高木一夫、野瓶徳夫、西評議員を指名し、議事に入る。

◎ 議案米一斗半 議員合議事

昭和四年年度決算承認の件

議長 市川信次
議員 永島裕三
小川 徹

山田和雄
小宮山茂木

山田明男
浪沢雅英

杉本洋雄
計十一名

河同所員
合計三十名

榎田理事議長となり、用命を宣し、出席者が定

足数に達したる日を報告し、ついで議事録署名人に入

高木一夫、野瓶徳夫、西評議員を指名し、議事に

入る。





四三三坪となり、この土地にたいする杉本氏との契約は、官
 務事務所が大体五月末か六月上旬にかりて高速道路
 分の手續がかわるので、水から進めたいこと、なれ代代につ
 てはこの契約書の作成をまたずい受けとるべく、長い
 交渉中であると報告し、全員これを受け承した。
 さらに議長より研究所の基本財産が五百万円に少
 ないため、今圃清水建設の株券三、四万株を三百万円の
 酒の基本財産に加え、その手續をなしたいと述べたところ、
 全員異議なく承認した。

議案第四号
 議案第五号
 議長より現在事務の任期は七月十日までであるが、故
 構西元速氏よりあとか空席の事あるまいかと、この際



◎ 議案第三号
 土地財産に關する件
 議長より三田調町の土地契約に關しては、中山正則氏に
 住し、あつて、その後の経過報告をせよとめ、この間は山氏
 研高連道路分は一セロ、五坪とあるが、この研究分は
 議案第三号
 中山正則、二野敏徳、速水融、宮本常一
 の八名がえり、全員承認した。(ア、空木順)

三) 今後進行については、宇野脩平氏をふくめて委
 員会をとり検討する。委員の選定は、宇野脩平、河同武春、桜田勝徳
 の三名も決議してはどうかの提案があり、全員異議
 なく承認した。



[Blank page with faint vertical lines]



本堂の氏を選任したるは自ら提督兼もせし友とて、全員異
 議なく承認した。議事は五月十日午後三時、議長用命を宣し
 以上で議事も全部終了し、午後三時議長用命を宣し
 也。

以上

昭和四年五月二十一日

議長 櫻田勝徳

野瓶徳夫

新井 徳夫

白田 徳夫





第一回理事會臨時會
昭和四十二年五月

日本常務文火部

昭和四十二年五月五日午後三時
第一回理事會臨時會
議事録

一、日時 昭和四十二年五月五日午後三時

二、場所 港区南麻布四丁目九六一七

三、出席者 理事 櫻田勝徳 理事 宮本馨太郎

評議員 中山正則

理事 竹内利美

合計六名

なかつぶいて委員の銓衡にはハリ

調野善彦、宇野脩平、河岡武春、桜田勝徳、中山正則、二野親徳夫、速水融、宮本常一の八名がえらばれ、全員ニルを了候した。(パイロエホ順)

◎ 議案才三号

土地財産に関する件

議長より三田嗣所の土地契約については、中山正則氏に一任してあり、その後の経過報告をもとめたと、中山氏は高連道路分は一七〇坪と、まいったので、研究所分は四四一三〇坪となり、この土地はたいする株本氏との契約は、宮阪事務所が、大体五月末か六月月上旬は、おき、高連道路分の手続がおわりのので、それから進めたいこと、なお地代については、この契約書の作成を

また、おに受けとるべく、たたいま接渉中であると報告し、全員ニルを了候した。

さらに議長より、研究所の基本財産が五〇万円にて少ないため、今回清水建設の株券ニ〇〇株を三〇万円の評価にて基本財産に加え、その手続をなしたいと述べたところ、全員異議なく承認した。

◎ 議案才四号

評議員選任の件

議長より、現在の評議員の任期は七月十日までであるが、右の三名を追加選任したい旨の提案をしたところ、全員異議なく承認した。

- 網野善彦 (都立北園高校)
- 佐々木繁雄 (第一銀行)
- 野村内合 (豊)
- マコエ下野





速水 融 (慶応大学) (アイロエオ順)
 以上で議案を全部終了し、午後四時、議長用会を置し
 た。

昭和四十一年五月三十一日

議長 櫻田勝徳

宮本馨太郎

宮本 常一

議案の進行は、議長、副議長、各委員の
 意見を聴き、基本計画の審議を終了し、
 次いで、各委員の報告を聴き、議案の
 採否を決定し、議長に報告した。



纂 18.

昭和四十一年度
 第二回評議員會議事録
 評議員 梶野吾左 評議員 榊田春徳
 有賀喜齋門 中上正則
 牛島清平 榊田春徳
 河野武春 速水誠
 佐本 戩因治人 山岡明男
 中口 日本常民文化研究所

昭和四十一年度
 第二回評議員會議事録
 評議員 梶野吾左 評議員 榊田春徳
 有賀喜齋門 中上正則
 牛島清平 榊田春徳
 河野武春 速水誠
 佐本 戩因治人 山岡明男
 中口 日本常民文化研究所





水二回評議員會議事録
昭和四十一年夏

日本常及天大形美所
推定人

昭和四十一年度十月廿一日至廿二日
評議員會議事録

一日時 昭和四十一年七月廿七日午後一時至午後三時 開會

二場所 新橋區舟場一丁目仲村屋四階 評議員 榎田勝徳

出席者 評議員 網野吾彦 評議員 中山正三郎

出席者 評議員 宇野龍平 評議員 速水武融

出席者 評議員 新島武春 評議員 山田明男

出席者 評議員 菅本常三 評議員 林本正樹

出席者 評議員 中田敏雄

出席者 評議員 五十任松太郎



昭和四十一年七月三十一日

議長 櫻田勝徳

署名人 東水 融

署名人 網野善彦

送したく、なお、宮本常一氏に「は去る五月二十一日の評
議員会において、梅西光連理事の後任として選ばれたが、今
回都合により、辞任願をお出されたので、これを承認し、選挙の
結果、有道喜友衛門、宇野脩平、桜田勝徳、中山正
則、宮本馨太郎、宮本常一、山口和雄が選任され
た。

次上



評議員 磯貝 勇 評議員 浅沢雅英

市川信次 杉本行雄

伊豆川武吉 竹内利美

遠藤大武 永島裕三

小宮山若木 宮本馨太郎

佐々木繁彦 計三十三名

四、議事録の作成
二、新田理事が議長を以て十一用命を以て出席者不足致
し、達したる七日を報告し、「い」で議事録署名を以て網野善
一、日産、速水四融、評議員を指名し、議事に付す。

◎ 議事録一号

役員選任の件 公選事務
議事録一号 七月十日に於て一かう任期が満了、今回改

昭和四十一年度
 才二回理事會議事録
 一、日時
 二、場所
 三、出席者
 四、議事内容
 五、議決事項
 六、その他

財団法人
 日本常民文化研究所

昭和四十一年六月二十日
 理事會議事録
 一、日時
 二、場所
 三、出席者
 四、議事内容
 五、議決事項
 六、その他

財団法人
 日本常民文化研究所





昭和四十二年七月十六日

第二回理事會議事録

一日時 昭和四十二年七月十六日 午後一時 南会

二場所 新市區再高一ノ二 中村屋四階

三出席者 理事 有賀喜長衛門 理事 宇野倫平

(兼任) 理事 竹内利美 理事 羽宗又吉

理事 羽宗又吉

四議事要項

第二回理事會議事録

日本書局





評議員 梶野善彦	評議員 梅田勝彦
有賀喜友衛門	佐木繁雄
磯貝 勇	荒沢雅英
市川 信次	杉本行雄
伊豆川 浅吉	高木 一夫
宇野脩平	竹内利美
遠藤 武	中山正則
小川 玉潔	永島 裕三
河岡武春	二野 雅徳夫
小宮山若木	祝 中 富静
速水 融	山口 雅三雄
輪島本 藤太郎	山田 明男
一ノ木 邦雄	澤本 常一



評議員長 議長となり、開会を宣し、全員出席、
 目を報告し、一ツで議事録署名人に有賀喜友衛門
 官本常一兩理事を指名し、議事に入る。

◎ 議事第一号

評議員改選の件
 去る七月十日に評議員の任期が切れ、今回改選に
 あり、五月二十一日選任の梶野善彦、佐木繁雄、
 速水 融、三氏は都合により辞任せられ、改めて長
 谷川 重三郎氏（強川 辞任の申し出あり、改選より）
 一日前ほか全員を再選し、評議員会を成り、研究所の
 母胎となした。自由提議したところ、全員同意（かく）
 承取。 梶野善彦 会長 梅田勝彦 副会長
 新評議員は次の二十五名である。





ついで監事に小宮山若木、高木一夫の両氏が選任された。

以上

昭和四十一年七月二十日

議長 櫻田勝徳

署名人 有賀喜友衛門

署名人 宮本常市



一たん休憩し、評議員会のみと、新理事長としつた。名により、継続して評議会のもたれた。

理事 有賀喜友衛門 宮本馨太郎

宇野修平 宮本常市

梅田勝徳 山口和雄

中山正則

◎ 議事才二号ノ選任

理事長の互選が、監事の選任に同じく、評議員会により新議長に選任された。理事の互選は、評議員会により、中山正則氏を議長に指名し、中山議長より、理事長も互選した。同日発言があり、互選の結果、有賀喜友衛門氏が理事長に選任された。